



参議院議員

2008年9-1号

風間直樹通信

発行: 風間直樹後援会 〒943-0807 新潟県上越市春日山町 2-12-3 TEL: 025-525-1135 FAX: 025-525-1136 E-mail: n-kazama@joetsu.ne.jp



福田総理の辞任により、年内総選挙が確定的になりました。自民党総裁選の盛り上がりにより、新内閣の支持率は発足後一時的に高率となるでしょう。

しかし、年金問題、後期高齢者医療制度問題など、国民に不安を与えている懸案の数々は、政権交代を経なければ解決しないと私は痛感しています。つまり、山積する懸案の背景には、与党と中央官僚の断ち難い貸し借り関係があり、それが解決を難しくしているのです。年金問題の根本原因をつくった社会保険庁の根本的改革案が、政府から容易に出てこなかったことを見てもそれは明らかです。

来る総選挙を通して、民主党は「政府と官僚」との関係を根本から変える提案を国民に致します。

「一度民主党に任せてみたら」。皆様にそう感じて頂けるよう、風間直樹は街頭、集会で政策を訴えて参ります。



参議院議員

風間直樹

海外視察・研修

地球温暖化問題に関する重要事項調査

参議院調査団に選ばれ、7月中旬からドイツ、デンマーク、イギリスに「地球温暖化対策」の調査をしてきました。

EUに所属するこれらの国々は、1997年の京都議定書で、90年に比べ9%のCo2を削減することを義務付けられています(日本は6%)。日本は70年代のオイルショックを経て省エネ技術が非常に進化し、排出削減を実現しているため、6%の削減を図るのは簡単ではないのです。一方のEUの東欧諸国には、Co2削減努力の余地が大いにある古い工場や発電所が多いため、9%の削減は日本に比べ容易と考えられています。

そうした背景の中、訪問した3カ国では温暖化対策への取り組みに意識の差を感じました。



まずドイツ。一致結束して共通の目標に取り組むことは、日本同様とても得意な国。訪れた自治体では、家屋内熱効率を極限まで高めた建築方法の普及や、市電を公共交通機関として活かした街づくりなど、斬新な取り組みに強い印象を抱きました。

デンマークでは、海上に30数機もの風力発電機を設置。高さ30メートルに及ぶ風車が常に回転し、電力を供給しています。化石エネルギーの代替手段として風力発電が有望視される環境が、北欧諸国にはあることを実感しました。

イギリスは、日本に比べると温暖化対策への「焦燥感」は薄い雰囲気。京都議定書で割り当てられた削減目標の達成は十分可能であり、それ以上の削減を検討している点にゆとりを感じました。

「地球温暖化を防止できるか否かはここ数年が勝負」(ゴア元米国副大統領)。京都議定書で規定された目標に留まらず、EU各国が果たしてどれだけ踏み込んだ対応策を取れるのか。日本との「温度差」を感じた調査でした。

今回の調査結果を踏まえ、風間直樹は参議院で議論を喚起していきます。

後援会活動に関するお願い

地区・地域での「小集会」の開催などにご協力をお願いします。

風間直樹後援会事務所

〒943-0807 上越市春日山町 2-12-3

TEL : 025-525-1135

FAX : 025-525-1136

E-mail: n-kazama@joetsu.ne.jp

<http://www.kazamanaoki.com>



民主党同僚議員と 上越教育大学視察

今年で創立 30 周年を迎え、指導の場においての極めて実践的な取り組みを行っている上越教育大学へ視察に行きました。

教員免許状更新講習及び全国初の「教職大学院」の設置状況を視察した後、授業を見学し、学長、副学長はじめ担当教授らと懇談と意見交換を行いました。



(上越教育大学にて)

謙信公祭

風間直樹事務所前にて

今年で 83 回目の謙信公祭は、昨年に引き続きガクトさんの出演で、22 万人以上の人出となりました。

風間直樹上越事務所前の山麓線は謙信公祭の行列が通る好立地のため、近隣の後援会の皆様にお声をかけ、風間直樹議員ともども行列を観覧しました。



楽しいひと時の中にも後援会の皆様からの期待の声を頂き、9月下旬から始まる臨時国会に向けて身の引き締まる思いでした。

(2008.8.23)

